

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(4月9日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①1750分の授業時間確保のため55分授業への円滑な移行を図る。 ②平成29年度からの新たな教育課程を円滑に実施する。 ③朝学習、夏期講習・補習の充実に取り組む。	①54分授業への円滑に実施する。 ③朝学習、夏期講習を促進する。	①教務規定の変更を円滑に実施する/授業研究を通して、54分の有効利用を図る/週29コマ教育課程から週30コマ教育課程への移行を検討する。 ③朝学習において、CLASSIの活用を促進する。	①教務規定の改定が適切に行われ円滑に実施できたか/生徒による授業評価等/検討により教育課程が改善されたか。 ③どれだけ多くの生徒が、CLASSIを活用したか。	①教務規定の変更は、各教科等の協力により4月1日施行に向け改定ができた。 ③朝学習は定着しているが、CLASSIを使用した教科は、英語科・理科に止まった。(生物は夏季課題にも使用)。	①改定した教務規定の運用を通じ、新学習指導要領も視野に入れつつ、必要に応じて改善を図る。 ①54分授業実施を受け、授業力向上推進研究の一層の実践を図る。 ③朝学習による自学力育成を推進すべく、CLASSIの活用を促進する。	①教務規定変更や54分授業による授業時間確保は計画通り進んだ。54分授業の課題も出るだろうから生徒の声を聞き、改善を図りたい。 ③校内評価のとおり。	①30年度からは、54分授業により、授業時間は確保される。アクティブ・ラーニングの視点による授業改革を継続するとともに、その効果測定に意を用いたい。 ③使い勝手に多少難ありとの指摘もあり、業者との連携を密にする。 ○新学習指導要領に基づく教育課程を検討する。	①これまでの研究・研修により積み上げてきた成果を活用し、54分という時間を有効に使い、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践に努める。 ③メリットを最大限活用することで利用者との連携を密にする。 ○プロジェクトチームを組織して検討する。(開発広報)
2 生徒指導・支援	①生徒が安心して学べる学校づくりと支援体制の充実を図る。 ②生徒会活動及び部活動を通して、生徒の自主性や主体性を育てる。	①教育相談の充実と地域及び外部機関との連携により、安心・安全な学校生活を実現する。 ②教科外活動においても「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	①各学年の教育相談担当を中心にチーム支援を充実させる/学習・進路・生徒の3支援グループによる一次的援助サービスの充実を図る。 ②アクティブ・ラーニングの視点で指導・支援にあたる。	①適切にチームで支援できたか/各グループ業務及び全体指導を教育相談の視点で遂行したか。 ②文化祭や体育祭などの学校行事、部活動の活動状況に変化が現れたか。	①担任や学年の教育相談担当者を通じてSCを中心としたチーム支援につなげることができた。また、事案に応じて外部機関と連携しアドバイスを得ながら支援にあたった。/グループ業務における教育相談的視点を共有するには至らなかった。 ②文化祭で生徒の発案による新たな取組みが数多く実現した。	①各グループ業務における教育相談的視点の具体について検討する。 ②生徒会本部と文化祭実行委員会等の連携を推進する。 ②関東大会や全国大会で成果を上げる部活動が増えた。主体的な活動をさらに支援する。	①校内での取組みは粛々と進んでいる。地域との連携においては、地域での防犯活動などに積極的に参加できれば更なる意識向上につながるのではないかと。 ②校内評価のとおり。	①教育相談体制の維持継続に引き続き努めるとともに、SC・SSWの積極的な活用を進める。 ②引き続き、教科外活動の重要性・必要性を前面に出し、積極的な活動を支援する。	①生徒が安心して学べる学校づくりを継続し、担当グループと各学年の総合力により、支援体制の強化を図る。 ②教科外活動による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、担当グループと各学年の総合力により、支援体制の強化を図る。
3 進路指導・支援	①生徒の発達課題に応じたキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を育成する。 ②校内外の関係部署との連携を深め、生徒の個性や多様な進路希望に適した支援体制の充実を図る。 ③進路相談体制の強化、拡充を図る。	①キャリア教育と授業改革を一体化させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 ②③生徒向け及び保護者向けの説明会並びに教員向け研修会の工夫・改善を図る。	①授業を通じたキャリア教育とアクティブ・ラーニングの視点による進路指導を展開する。 ②③大学進学者の指導に即した職員研修を実施する。	①生徒による授業評価等 ②③2、3年生を対象とした上級学校講座等の来校数の推移や、進路資料室の利用状況等の変化。	①生徒による授業評価で「授業に意欲的に取り組んでいる」生徒の数が、2・3年で増加しており、「主体的な学び」が実現しているものと思われる。 ②③2年生対象に分野別説明会及び上級学校講座、3年生を対象に学校説明会を実施した。参加校は生徒の希望調査に即して依頼し、来校数は昨年度と同様であるが、3年生対象の学校説明会では入試担当者等が来校し、最新の大学入試情報の提供ができた。 ②③進路資料室に自習用机を置き、赤本を増やすなど整備を進めた結果、利用頻度が高まったと担任から感想が寄せられたが、自習用机の台数が限られていることから、自習用机を使えない生徒も出た。	①「主体的な学び」について、大学等への漠然とした進学意識に終わることなく「学ぶ意味」「将来への展望」などの自覚をさらに深めたい。 ②③生徒の自習環境の整備、拡充についてさらに検討を進める。また進路指導計画を明確にし、段階的・戦略的な進路指導の継続を図る。	①授業評価の好転は取組みの成果と捉える。ALによって磨かれる対話力は、社会に出てから大変必要とされる能力である。既に取り組んでいるが、キャリア教育として人生のプランニング・就職を見据えた指導に期待する。 ②③校内評価のとおり。	①キャリア教育と授業改革を一体化させ、資質・能力の向上を図るという方向性は定まっている。具体の実践をより強化したい。 ②③生徒や職員を対象とした講演会やセミナーの講師を精選したことは効果的であった。3年間の進路指導計画を見通せる文書を作成したので、進路相談体制も含め、更なる充実を図りたい。 ○新調査書への対応を検討する。	①教科・教科外のあらゆる教育活動を「主体的・対話的で深い学び」の視点で実践する。 ②校内外の関係部署との連携を深め、多様な進路希望に適した支援体制の充実を図る。 ③具体の進路のみを焦点化することなく、本来的な進路相談の推進を図る。 ○紙ベース、ICTの両面から検討する。(進路、学習)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(4月9日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
						②③これまで1年生で行っていた卒業生による「先輩セミナー」に加え、今年度はForaと連携した大学生による進路企画「キャリアゼミ」(大学生セミナー)を2年、3年で実施した。両学年とも「生の大学生の声が聞けた」「進路決定に悩んでいたが、大変参考になった」など生徒の感想は大変好評だった。			
4 地域等との協働	<p>①地域との連携・協働により開かれた学校づくりを進める。</p> <p>②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を整える。</p> <p>③横浜北東・川崎地域の高等学校との情報交換・交流により、教員の授業力向上と豊かな生徒発表の場を構築する。</p>	<p>③横浜北東・川崎地域の高等学校との情報交換・交流により、教員の授業力向上を図り、豊かな生徒発表の場を実現する。</p>	<p>③授業力向上の取組みをとおして、横浜・北東川崎地域の取りまとめ校としての意識を高め、全校的協力体制を整える。</p>	<p>③地域の学習成果発表会と研究成果発表会の本校生徒・教職員の参加人数。及び地域全体の参加人数。</p>	<p>③4月からAL研修会を4回、6月と11月に研究授業を各教科で行った。特に8月の研修会Ⅱでは、午前に研究のための模擬授業、午後は、関西大学森朋子先生の講演会を行い、ALへの実践と理論を研修した。</p> <p>③授業改革への取組みとして、「深い学び」につながる授業の形を、グループの討議から研修会、職員会議へとスケールアップし、学校全体での取組みとした。</p> <p>③学習成果発表会への生徒参加は増えた。</p>	<p>③研修は概ね好評で、教員の意識を変える大きなはずみになった。その意識の変化をどのように授業に反映させ、生徒の変容を図るか、生徒の未来につなげるかが、これからの課題である。</p> <p>③授業力向上推進重点校として、まとめの時期に入る中で、その成果をいかに測り、いかに地域等其他校への還元を図るかという視点で取り組む。</p>	<p>①地域との連携では「大倉山さくらまつり」「小・中・高合同演奏会」「あすなる交歓会」「防災訓練」など実績があるので積極的にアピールした方がよい。</p> <p>③計画的な研修会開催により研究意識向上に繋がっている。学習成果・研究成果発表会では指定校以外の参加を得たことは評価できる。</p>	<p>①生徒が地域のイベントに協力する体制は整っている。地域の方々が学校に入る機会も勿論あるが、その拡充について検討したい。</p> <p>③授業力向上への取組みは着実に進捗しており、研修会や講演会なども盛況である。研究指定最終年度になるため研究成果発表が取組み紹介に止まることのないようその成果をまとめたい。</p>	<p>①地域、PTA、同窓会との連携をさらに推進し、学校運営協議会への円滑な移行を図る。</p> <p>③取組みの紹介に止まることなく、「仮説の検証」の視点を徹底した研究成果発表を行う。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①防災に係る地域連携を進め、教職員や生徒の防災意識を高める。</p> <p>②事故防止会議(不祥事防止研修会)を実施し、教職員の危機管理意識を高める。</p>	<p>①生徒の安全確保に必要な学校防災の取り組みについて教職員の共通理解を図る。</p> <p>②年間計画に基づき、全職員対象の事故防止会議を職員会議に併せて行なう。</p>	<p>①家庭で生徒を交えて話し合い提出させた帰宅カードを元に帰宅班訓練を実施する／各クラスの防災係から選出したメンバーを太尾地区防災訓練等に参加させる／防災講話の内容を本校生徒の実情に合うように精選して、本校教職員が講師となって実施する。／DIG研修を実施する。</p> <p>②各グループが持ち回りで時期に合わせたテーマを設定して担当を務め、より効果的な事故防止会議となるように工夫する。</p>	<p>①学校・保護者並びに地域住民の連携を重視して取り組むことができたか。</p> <p>②事故・不祥事防止の各テーマについて、教職員が自らの課題として受け止め、問題解決の方策について積極的・意識的に取り組むことができたか。</p>	<p>①大倉山地区大規模防災訓練への参加や太尾小避難訓練への参加、校内では防災予備訓練(帰宅班事前指導)・防災訓練・シェイクアウト・喫食訓練・クラス防災係対象のDIG研修・認定NPO法人かながわ311ネットワークによる防災講話を行った。</p> <p>②4月から3月まで全14回の職員会議に併せ、冒頭、事故防止研修を行なった。内容は、例えば成績処理の時期には、そうした作業・業務に関わる過去の事故事例を参考にして事故防止についての情報共有を行った。年間を通じて、県作成の資料等を活用し、本校でも起こり得ることを繰り返し強調しながら、注意喚起を行った。</p>	<p>①本校生徒に適した内容となるよう教材の精選を図る。各クラスに配置している生徒防災係に対して、DIG研修や避難訓練時の整列・点呼、防災講話における講師の質問に対する回答や意見・感想を述べる仕事等を割り振り、係としての更なる意識向上を目指した指導を行う。</p> <p>②今後も継続的かつその時々に合わせてタイムリーな事故防止研修を行い、可能な限り網羅的に各テーマを取り上げるとともに、職員自らが講師となる機会を増やし、職員の危機管理意識の向上を図る。</p>	<p>①太尾小の避難訓練や地区大規模防災訓練など積極的に協力をいただいている。防災係の知識や技能を訓練に生かす機会があれば更に充実したものになる。</p> <p>②校内評価のとおりに。</p>	<p>①校内での各種訓練や講話・研修、地域主催の訓練などへの参加等、計画通りに進んでいる。地域への参加の拡充について検討したい。</p> <p>②次年度より、企画会議をもって事故防止会議とし、職員会議をもって不祥事防止研修会とすることとした。職員のアイディアや主体性、時期に応じた研修によって効果を高めたい。</p>	<p>①地域主催の防災訓練や防災関係会議への更なる参加の検討。</p> <p>②企画会議の効率化を図り、事故防止会議に係る企画立案機能を強化する。</p>